

【令和3年度事業】

「荒町・連坊地区における地域づくりの声見える化事業」

【令和4年度事業】

「荒町・連坊地区におけるニーズ・シーズのマッチングシステムの構築」

報告団体名

東北学院大学 地域連携センター

令和3年・令和4年実施事業について

1. 令和3年度事業【課題調査検証助成】

事業名：「荒町・連坊地区における地域づくりの声見える化事業」

実施団体：東北学院大学

2. 令和4年度事業【協働実践助成】

事業名：「荒町・連坊地区におけるニーズ・シーズマッチングシステムの構築」

実施団体：東北学院大学地域連携センター

荒町地区連合町内会、連坊地区町内会連合会

荒町商店街振興組合、連坊商興会、むにゃむにゃ通り商店街商興会

荒町市民センター

令和3年度事業 実施報告

実施団体名：東北学院大学

1. 事業実施団体について

団体名：東北学院大学

(1) 建学の精神

「宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育」

(2) 教育の理念・目的

「東北学院大学は、キリスト教による人格教育を基礎として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって世界文化の創造と人類の福祉に寄与することを目的とする。」



2. 令和3年度の実施内容

(1) 課題

2023年4月より五橋キャンパス開学に伴い、地学連携による地域づくりに向けた期待や不安が混在している状況にある。既に、地域と個別のゼミや大学の各部との間において、個別事例的な取り組みは散見されるものの、地域の大学全体という関係性の間における具体的な連携のあり方は模索が続いている。

(2) 事業の目的

今後、荒町・連坊地域と東北学院大学が連携を進めていくにあたり、地域と大学双方に対してのアンケート調査を実施し、今後の連携において活用が可能な「荒町・連坊地区における地域づくりの声データ集」を作成、共有することを目的とする。

2. 令和3年度の実施内容

令和3年度事業の目標

- 目標1：地域と大学によるアンケート調査票の共同設計
- 目標2：地域（町内会、商店街）、大学を対象としたアンケート調査の実施
- 目標3：アンケート回収率30%目標
- 目標4：調査結果をもとにした地域の声の「見える化」としての共有資料作成
- 目標5：本事業により作成した資料を基にした1回以上の話し合いの場を設ける

令和3年度の実績

- (1) 地域との協働によるアンケート調査票作成のための意見交換の実施
- (2) 地域・大学への調査の実施
- (3) 「荒町・連坊地区における地域づくりの声データ集」の作成と配布
- (4) 調査結果報告・調査結果活用に向けた話し合いの実施

2. 令和3年度の実施内容

事業実施体制

※令和3年度事業は、東北学院大学の地域連携センター、地域連携課にて実施

氏名	役職など	役割
坂本泰伸	地域連携センター長	事業責任者
石塚直樹	地域連携センター 特任教員	事業統括
水野麻美	地域連携課 課員	事務局統括
菱河亮平	地域連携課 課員	事務局
渡邊圭	地域連携センター 特任教員	アンケート調査結果の 整理

協力団体

以下の団体に調査の共同設計や意見交換会への参加にて協力を頂いた。

- ・ 荒町地区連合町内会
- ・ 連坊地区町内会連合会
- ・ 荒町商店街振興組合
- ・ 連坊商興会
- ・ むにゃむにゃ通り商店街商興会
- ・ 荒町市民センター
- ・ 荒町エリア発信隊
- ・ 仙台市若林区まちづくり推進課

2. 令和3年度の実施内容

(5) 事業スケジュール

時期	実施内容
8月	地域の関係団体への事業実施説明
9月	アンケート調査の共同設計
10月	アンケート調査の共同設計
11月	アンケート調査の実施・回収
12月	アンケート調査の整理、収集したデータの「見える化」
1月	収集したデータの「見える化」、地域と大学の話し合いの場の設定
2月	話し合いの場の設定
3月	報告書の作成と提出

2. 令和3年度の実施内容

(6) 使用経費について

収入	科目	内訳	
	仙台市助成金	495,000円	
	自己資金	55,600円	
	合計	550,600円	

支出	科目	内訳	備考
	人件費	21,375円	アンケート調査入力業務
	旅費	26,980円	他地域事例の視察
	消耗品	4,402円	印刷用紙、封筒
	印刷製本費	213,950円	報告書印刷
	通信運搬費	40,450円	アンケート調査発送・回収
	その他経費	3,120円	報告書デザイン委託料 視察時手土産代
	合計	310,277円	

収支決算

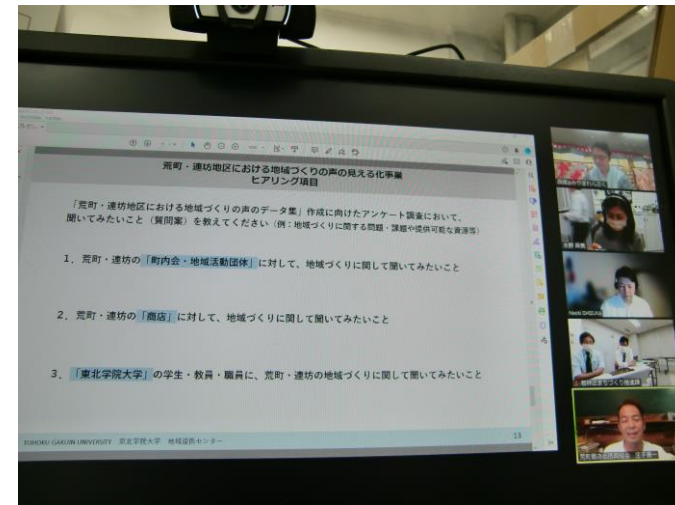
収入				支出
仙台市助成額	団体負担額	その他収入	収入計	
279,000円	31,277円	0円	310,277円	310,277円

3. 実施した取り組みの紹介

(1) アンケート調査の共同設計

荒町・連坊の町内会、商店街と共同でのアンケートの設計を行った

* コロナ禍ということもありオンラインも活用



3. 実施した取り組みの紹介

(2) アンケート調査の実施

地域（荒町・連坊）、東北学院大学を対象としたアンケート調査の実施

【調査概要】

・ 調査対象

荒町・連坊地区の町内会、商店街組合、地域団体 719名

東北学院大学の教職員、2年・3年次の学生 6,036名

・ 実施方法

WEBと郵送法によるアンケート調査

・ 実施期間

2022年2月～3月

地域向け調査	大学調査
回収率：61.4%	回収率：0.89%
有効回答率： 52.5%	有効回答率： 0.89%

「荒町・連坊地区における地域づくりの声のデータ集」作成に向けたアンケート調査
【荒町・連坊地区向け】回答用紙

本アンケートは、荒町・連坊地区に関わる町内会や商店、大学などの各種団体に所属する皆様から地域課題に関する声を集め、今後の地域課題の抽出や課題解決に資する取組の検討に利用できる資料（「荒町・連坊地区における地域づくりの声データ集（報告書及びパンフレット）」）の作成を目的としています。

このアンケートは皆様の自由意思によって行われるもので、回答や協力の有無によって皆様に不利益が生じることは一切ありません。本調査の趣旨にご理解いただいた場合には、Q1から回答を進めてください。

記入上の注意



1. 回答時現在の状況でお答えください。
2. ご協力を頂ける場合、返信用封筒にて令和4年3月6日（日）までにご提出ください。
3. ウェブによる回答も可能です。下記 URL または右記 QR コードよりお進みください。
ウェブ回答用 URL (<https://forms.gle/NQPHbodZVnkb4KNx5>)

Q1. 本アンケート調査の趣旨を理解した上で、調査にご協力いただけますか（当てはまるものの□に✓をつけてください）

趣旨を理解した上で調査に協力をする 調査には協力できない

Q2. あなたご自身について教えてください（当てはまるものの□に✓をつけてください）

- 1) 年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
- 2) 性別 男性 女性 指定しない
- 3) 職業等 経営者・役員 自営業 専門職 会社員 契約社員・派遣社員
 パート・アルバイト 公務員 教職員 団体職員 専業主婦・主夫
 無職・定年退職 その他（_____）
- 4) 居住地域 荒町 連坊 その他（_____）
- 5) 所属組織 荒町地区の町内会 連坊地区の町内会 荒町商店街振興組合
 連坊商興会 むにゃむにゃ通り商店街商興会 地域活動団体 該当なし
 その他（_____）

Q3. 東北学院大学に対する認知・イメージを教えてください（当てはまる番号に○をつけてください）

5 4 3 2 1
よく 知って どちら あまり 知らない
いる いる とも 知らない ない
知 言 知 知
って えて ちら ち ち
る いる とも ち ち
る いる えて ち ち
ない ない ない ない ない

東北学院大学と聞いて思い浮かぶイメージを教えてください：

Q4. 荒町・連坊地区の地域づくりにかかる現状について教えてください

1) 地域の良いところ・PRポイント（上位3位までの番号を右の回答欄に記入して下さい）

- ①住環境が良好 ②自然環境が良好 ③道路・交通が便利 ④商店街の賑わい
⑤お祭り(七夕等)やイベント ⑥地域住民のつながり ⑦治安・防災面で安全安心
⑧固有の歴史や文化がある ⑨街並みに風情がある ⑩後継者・担い手がいる
⑪空き店舗・空き家が少ない ⑫住民・来訪者マナー良好 ⑬情報発信できている
⑭良いところがない ⑮特になし ⑯その他（_____）

Q4-1) 回答欄 良いところ・PR	
順位	番号
※例	⑫
1位	
2位	
3位	

2) 地域の問題と感ずるところ（上位3位までの番号を右の回答欄に記入して下さい）

- ①住環境に問題 ②自然環境に問題 ③道路・交通が不便 ④商店街の賑わい不足
⑤祭りやイベントに問題 ⑥住民のつながりが薄い ⑦治安・防災面の不安
⑧歴史や文化が埋もれている ⑨街並みが整っていない ⑩後継者・担い手不足
⑪空き店舗・空き家の増加 ⑫住民・来訪者のマナー違反 ⑬情報発信不足
⑭問題がわからない ⑮特になし ⑯その他（_____）

Q4-2) 回答欄 地域の問題	
順位	番号
※例	(7)
1位	
2位	
3位	

Q5. 今後の荒町・連坊地区と若者の協働による地域づくりについて教えてください（複数回答可）

1) 若者に期待すること（当てはまるもの全てに✓をつけてください）

- ランチでの飲食など商店街の利用 カフェやコワーキングスペース等、まちなかへの滞在
 アルバイトとして労働力の提供 ボランティア活動などを通じた地域づくりへの関わり
 地域や地域の歴史文化を知ってもらうこと 地域の祭りやイベントへの参加・参画
 地域住民との交流 活動のフィールドとして活用してもらうこと
 よくわからない 特になし その他（_____）

2) 不安に感じる事（当てはまるもの全てに✓をつけてください）

- 治安が悪くなること 交通渋滞が悪化すること 自転車等の交通面でのマナー違反
 ゴミ捨て等生活面でのマナー違反 深夜まで騒がしくするなどの生活上のマナー違反
 商店街が利用されないこと 学内のコンビニ・カフェ等に地域のお客様が流れてしまうこと
 よくわからない 特になし その他（_____）

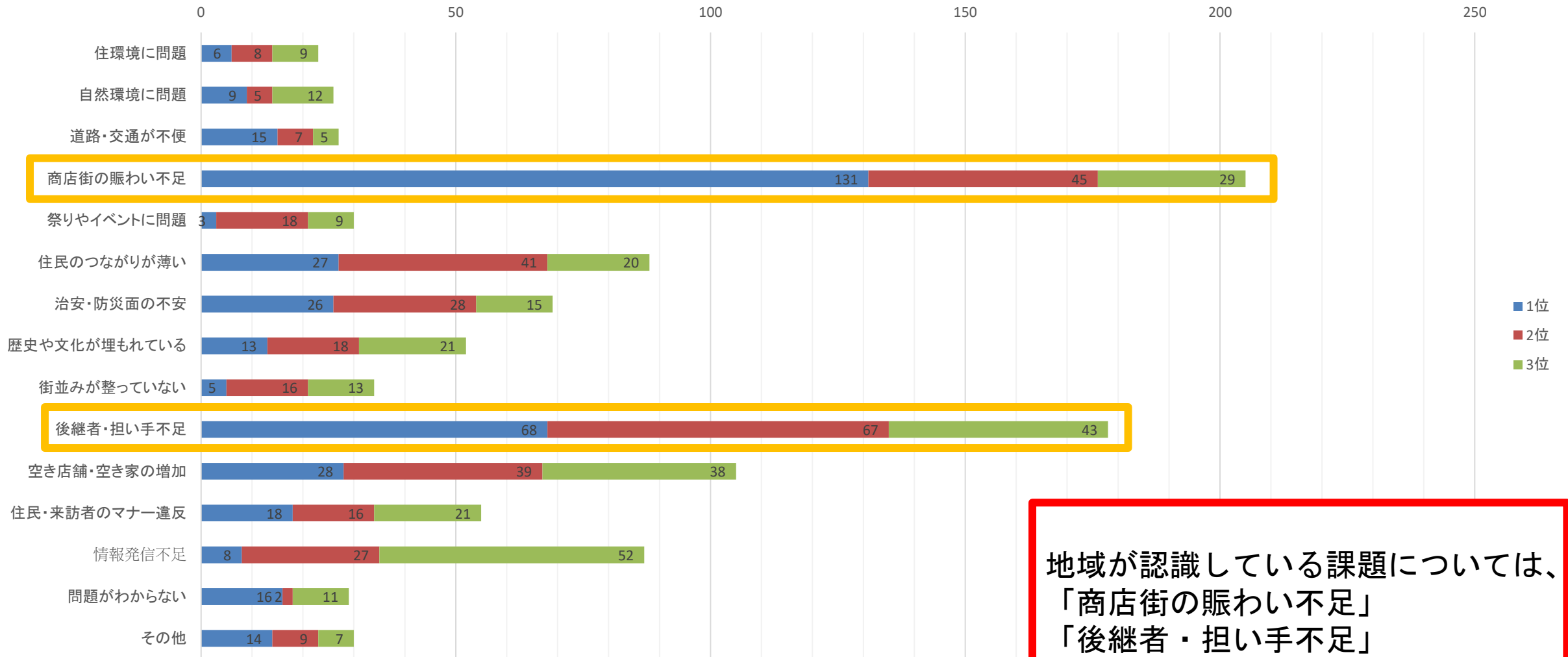
3) 地域と若者と一緒に取り組めると良いと感じること（当てはまるもの全てに✓をつけてください）

- 若者主体のイベントへの地域の参画 お祭りなど地域のイベントへの若者の参画
 地域の活性化・問題解決に向けた取り組み 商店街の活性化・問題解決に向けた取り組み
 地域を支えるボランティア活動 若者の教育・研究の地域における展開・実証実験
 よくわからない 特になし その他（_____）

質問は以上です。ご協力を頂き、ありがとうございました。



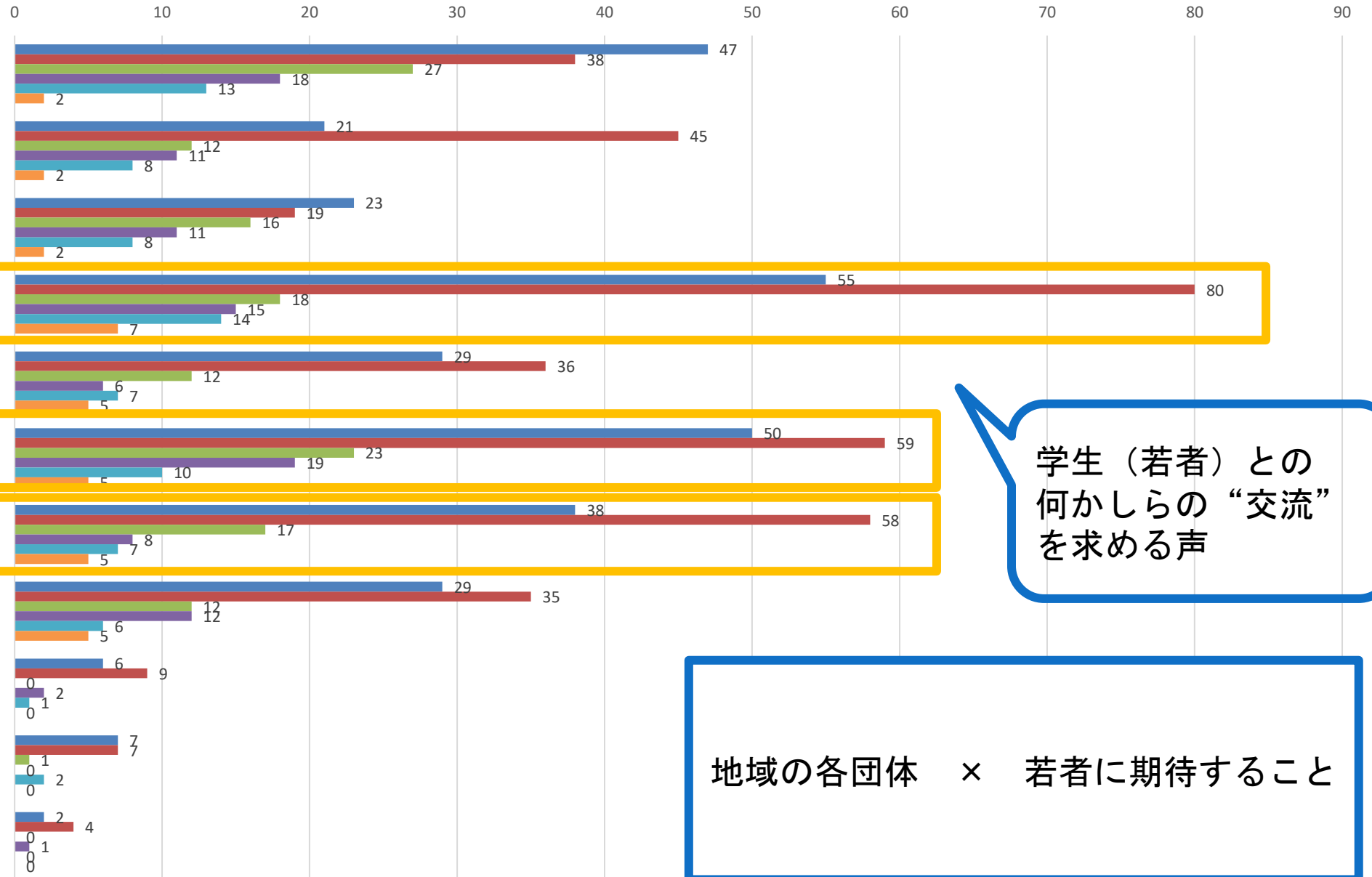
地域の良いところ、PRポイント（上位3位）



地域が認識している課題については、「商店街の賑わい不足」「後継者・担い手不足」の回答傾向がみられる。

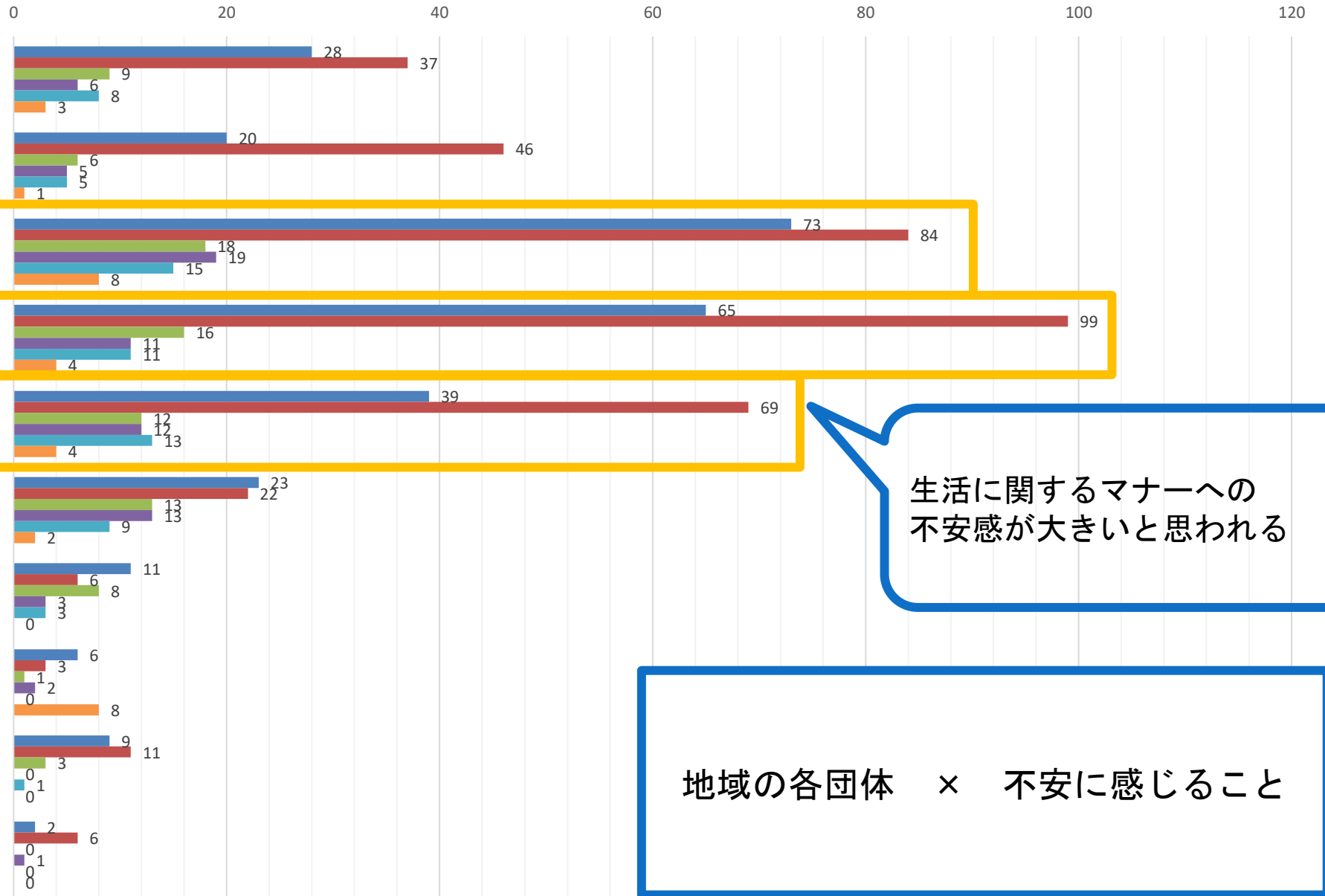
地域の問題と感ずるところ（上位3位）

■ 荒町連合町内会 ■ 連坊地区町内会 ■ 荒町商店街振興組合 ■ 連坊商興会 ■ むにやむにや通り商店街商興会 ■ 地域活動団体



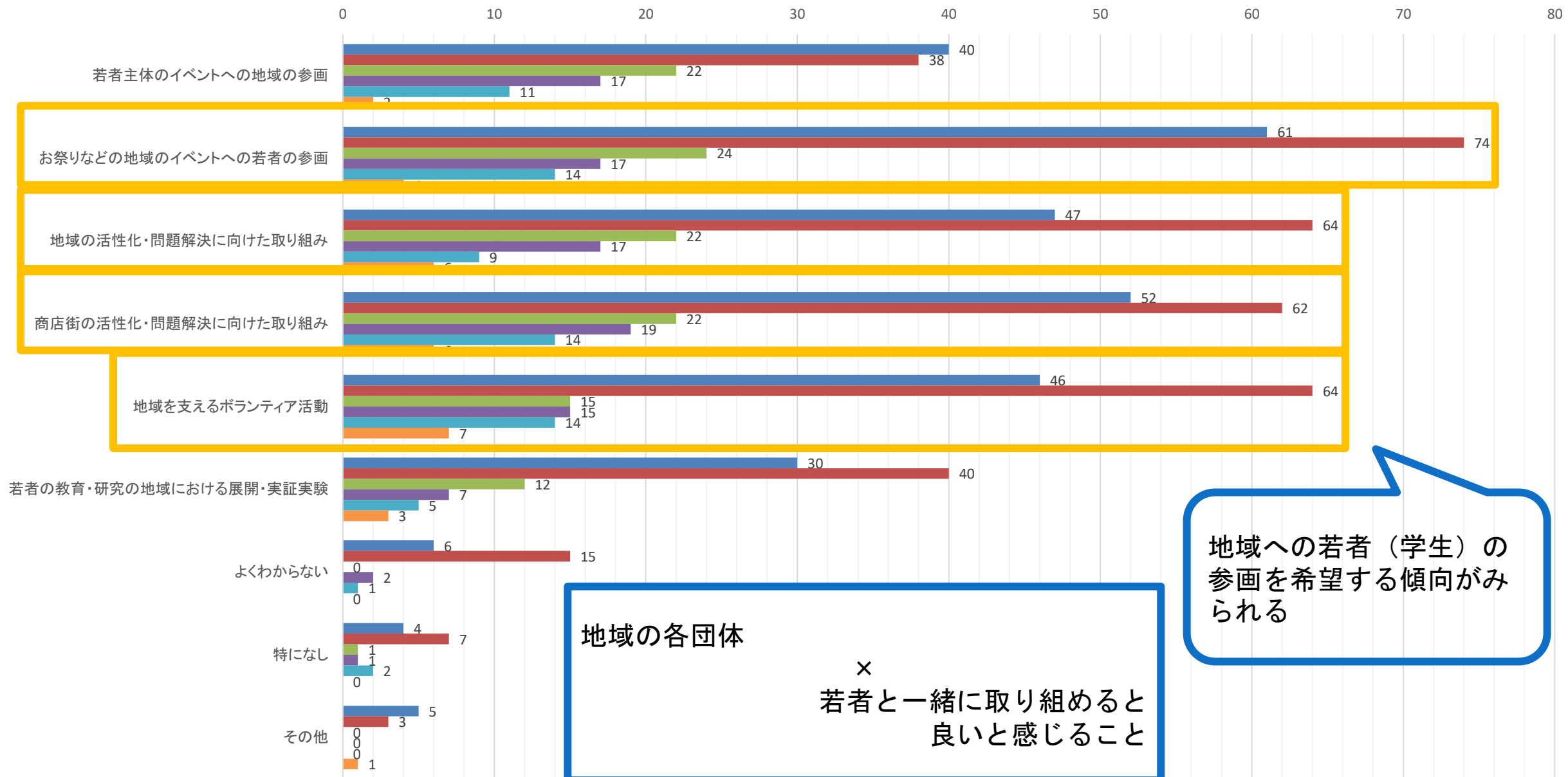
学生（若者）との何かしらの“交流”を求める声

地域の各団体 × 若者に期待すること



生活に関するマナーへの不安感が大きいと思われる

地域の各団体 × 不安に感じること



地域への若者（学生）の参画を希望する傾向がみられる

地域の各団体
×
若者と一緒に取り組めると
良いと感じること

「荒町・連坊地区における地域づくりの声のデータ集」作成に向けたアンケート調査
 【東北学院大学学生・教職員向け】回答用紙

本アンケートは、荒町・連坊地区に関わる町内会や商店、大学などの各種団体に所属する皆様から地域課題に関する声を集め、今後の地域課題の抽出や課題解決に資する取組の検討に利用できる資料（「荒町・連坊地区における地域づくりの声データ集（報告書及びパンフレット）」）の作成を目的としています。

このアンケートは皆様の自由意思によって行われるもので、回答や協力の有無によって皆様に不利益が生じることは一切ありません。本調査の趣旨にご理解いただけた場合には、Q1から回答を進めてください。

Q1. 本アンケート調査の趣旨を理解した上で、調査にご協力いただけますか（当てはまるものの□に✓をつけてください）

趣旨を理解した上で調査に協力をする 調査には協力できない

Q2. あなたご自身について教えてください（当てはまるものの□に✓をつけてください）

- 1) 立場 2年生 3年生 教員 職員
- 2) キャンパス 土樋キャンパス 泉キャンパス 多賀城キャンパス
- 3) 年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
- 4) 性別 男性 女性 指定しない
- 5) 出身地 () 都道府県 () 市町村
- 6) 居住地域 () 都道府県 () 市町村

Q3. 荒町・連坊地区の商店街・地域に対する認知・イメージを教えてください

1) 【荒町】の商店街・周辺地区等

5 4 3 2 1
 よく 知っている どちらとも あまり 知らない
 知っている 置えない 知らない

2) 【連坊】の商店街・周辺地区等

5 4 3 2 1
 よく 知っている どちらとも あまり 知らない
 知っている 置えない 知らない

3) 【むにゃむにゃ通り】の商店街・周辺地区等

5 4 3 2 1
 よく 知っている どちらとも あまり 知らない
 知っている 置えない 知らない

荒町と聞いて思い浮かぶイメージ:

連坊と聞いて思い浮かぶイメージ:

むにゃむにゃ通りと聞いて思い浮かぶイメージ:

Q4. 荒町・連坊に限らず、日頃得たいと考えている地域情報の内容・入手手段について教えてください

1) 日頃、得たいと考えている情報の内容（上位3位までの番号を右の回答欄に記入して下さい）

- ①飲食 ②住まい ③ファッション ④学び ⑤文化・カルチャー
 ⑥エンターテインメント ⑦イベント ⑧ボランティア ⑨アルバイト
 ⑩スポーツ ⑪体験 ⑫災害情報 ⑬その他 ()

2) 日頃、情報を得る手段（上位3位までの番号を右の回答欄に記入して下さい）

- ①ウェブメディア ②LINE ③Instagram ④TikTok ⑤Facebook
 ⑥Twitter ⑦その他のSNS () ⑧YouTube
 ⑨テレビ ⑩ラジオ ⑪新聞 ⑫雑誌 ⑬書籍 ⑭チラシ
 ⑮口コミ ⑯その他 ()

Q4-1) 回答欄 情報の内容		Q4-2) 回答欄 情報を得る手段	
順位	番号	順位	番号
※例	⑫	※例	⑦
1位		1位	
2位		2位	
3位		3位	

Q5. 今後の荒町・連坊地区と若者の協働による地域づくりについて教えてください（複数回答可）

1) 荒町・連坊地区に期待すること（当てはまるもの全てに✓をつけてください）

- ランチなどでの飲食店の利用 カフェやコワーキングスペース等滞在できる場所がある
 アルバイトできる場所がある ボランティア活動ができる機会がある
 地域や地域の歴史等を知る機会がある 地域の祭りやイベント等に参加できる機会がある
 地域住民との交流できる機会がある 活動のフィールドとして活用できる
 よくわからない 特になし その他 ()

2) 不安に感じること（当てはまるもの全てに✓をつけてください）

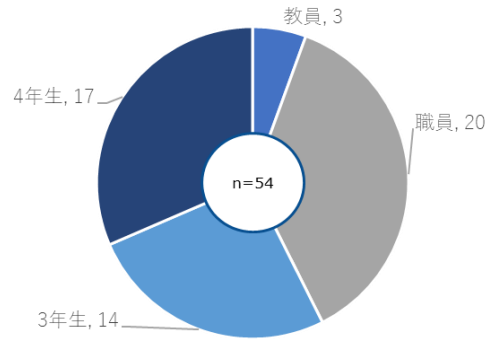
- 地域を知らないこと 地域の商店やサービスを知らないこと 地域とつながるきっかけがないこと
 地域住民とのコミュニケーション 地域に迷惑をかけてしまうかもしれないこと
 よくわからない 特になし その他 ()

3) 地域と若者と一緒に取り組めると良いと感じること（当てはまるもの全てに✓をつけてください）

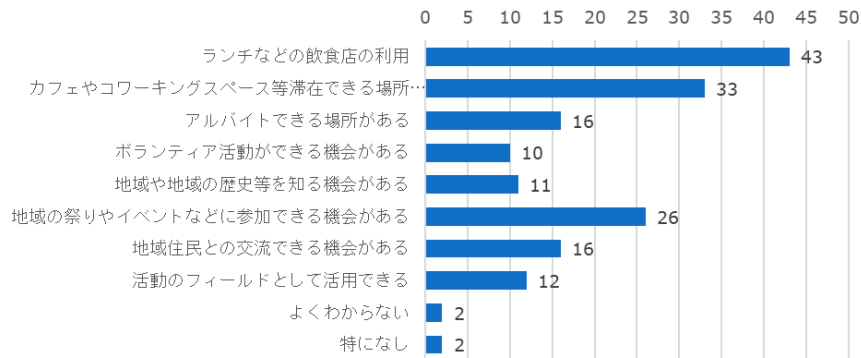
- 若者主体のイベントへの地域の参画 お祭りなど地域のイベントへの若者の参画
 地域の活性化・問題解決に向けた取り組み 商店街の活性化・問題解決に向けた取り組み
 地域を支えるボランティア活動 若者の教育・研究の地域における展開・実証実験
 よくわからない 特になし その他 ()

質問は以上です。ご協力を頂き、ありがとうございました

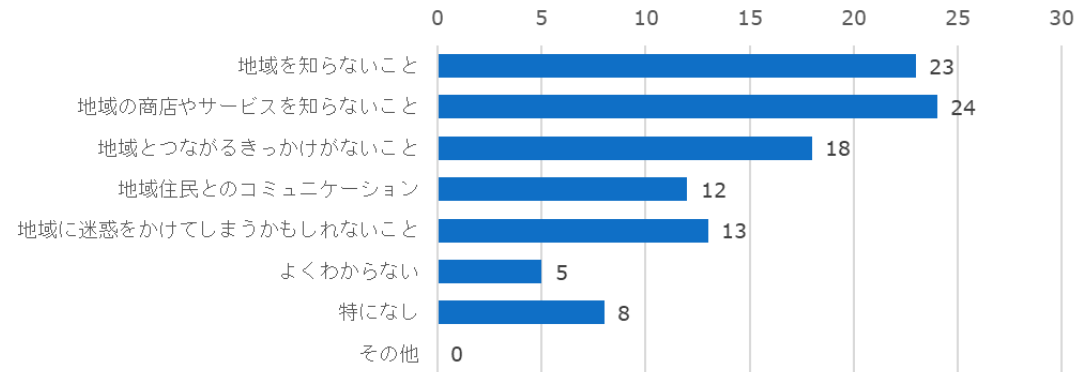
(1) 回答者属性 (数)



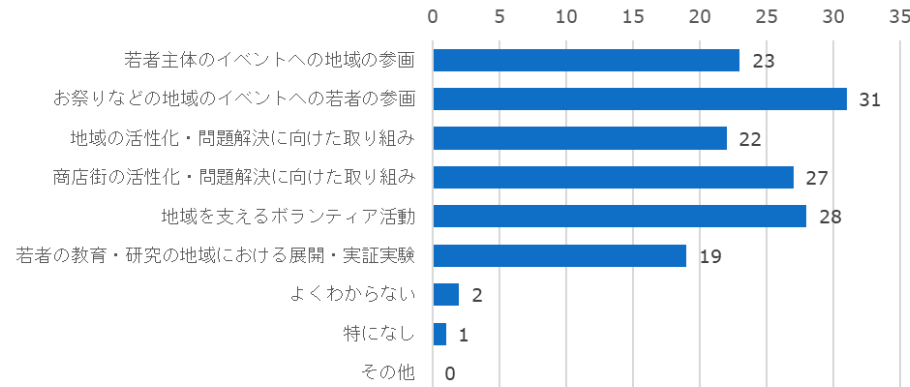
(2) 地域に期待すること (数)



(3) 不安に感じること (数)



(4) 地域と若者で一緒に取り組めると良いと感じること (数)



大学サイドの回答は回収率の低さより、
この回答を大学側の意見とすることが難しいため再調査を予定

3. 実施した取り組みの紹介

(3) 調査結果を基にした地域と大学の意見交換会の実施

2022年3月30日 荒町市民センターにて開催

* 調査結果をもとに今後の地学連携に関する意見交換の実施



4 事業の成果

荒町・連坊地区マップ



荒町・連坊地区における 地域づくりの声データ集 【速報版】

アンケート調査実施概要

調査の目的	2023年に計画開始予定である東北学院大学五福キャンパスが立地する仙台市若林区荒町・連坊地区において、同地区の地域づくりに関わる多様な主体が考える今後の地域づくりに関する現状や意向を明らかにし、その結果を共有することで、今後の同地区の地域づくりに活かすことを目的としている。
調査対象者	①荒町・連坊地区において地域づくりに取り組む組織(2つの連合町内会(荒町地区連合町内会、連坊地区連合町内会)、3つの商店街組合(荒町商店街商組合、連坊商興会、むにゃむにゃ通り商店街商興会)、地域活動団体)から約70名 ②東北学院大学教職員約527名、及び2年・3年次の学生約5,509名、計6,036名
調査項目	①地域・商店街及び東北学院大学に対する認知、イメージ ②荒町・連坊地区の地域づくりに関する現状(荒町・連坊地区調査質問) ③目指したいと考えている地域情報の内容・入学段階(東北学院大学調査質問) ④今後の荒町・連坊地区と若者の協働による地域づくり
実施方法	アンケート調査(web調査及び郵送調査を併用)
実施期間	2022年2月
有効回答数(2022年3月現在)	①荒町・連坊地区向けアンケート調査 有効回答数 443件 有効回答率 61.6%(443/719) ②東北学院大学向けアンケート調査 有効回答数 54件 有効回答率 0.9%(54/6,036)
調査実施主体	東北学院大学地域連携センター 協力団体 荒町地区連合町内会、連坊地区町内会連合会、荒町商店街商組合、連坊商興会、むにゃむにゃ通り商店街商興会、荒町市民センター、仙台市若林区まちづくり推進課

荒町・連坊地区における地域づくりの声 データ集【速報版】
2022年3月発行
編集：発行 東北学院大学地域連携センター(担当：石塚理恵)
本資料に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
【問い合わせ先】
東北学院大学地域連携センター 地域連携課(担当：赤野美咲)
〒980-8511 仙台市若林区土樋一丁目3-1 土樋キャンパス2号館 2階
TEL: 022-264-4562 E-mail:kikuo@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
*本パンフレットは仙台市若林区づくりパートナープロジェクト推進協議会の協力を受けて作成されました。



東北学院大学地域連携センター

アンケート 集計結果

荒町・連坊地区と東北学院大学
地域・地域づくりについて、
どう感じている?

地域の声

【荒町・連坊地区のよいところ】
PRポイント(上位3位まで選択、n=443)

道路・交通が便利	350
住環境が良好	250
独自の歴史や文化がある	150
治安・防災面で安心	100
地域活動のつながり	50
自然環境(モテ祭)イベント	50

【荒町・連坊地区の問題と
感じるところ】(上位3位まで選択、n=443)

商店街の賑わい不足	250
高齢者・若い学生不足	200
治安・防災面の不安	150
住環境のつながり	100
情報発信不足	50
治安・防災面の不安	50

大学の声

【日頃、増たいと考えている地域の情報】

飲食	100%
文化・カルチャーイベント	95%
ファッション	85%
学び	75%
災害情報	65%

【日頃、情報を得る手段】

ウェブメディア	100%
Twitter	95%
Instagram	85%
テレビ	75%
YouTube	65%
ラジオ	55%

今後の荒町・連坊地区と若者の協働の地域づくり

【協働の地域づくりに期待すること(複数回答)】

地域のイベント活動などを通じた地域づくりへの取り組み	80%
地域の祭りイベントなどの開催の増加	70%
若者によるオンラインなどでの教育の活用	60%
地域活動と若者の交流できる機会	50%
若者の活動のフィールドとして地域の活用	40%
カフェやコワーキングスペース、まちなかの集客	30%

【地域と若者と一緒に取り組めると良いと感じること(複数回答)】

多様な地域のイベントへの若者の参加	80%
商店街の活性化・情報発信に向けた取り組み	70%
地域の活動や若者の交流できる機会	60%
地域をえるオンライン活動	50%
若者主体のイベントへの地域の参加	40%

5. 残された課題

意見交換会で出された意見

「我々地域はまちづくり、学生側は地域を知ることが関心になっており、溝があるのでコミュニケーションの場を設けるべきだと思う。」

「地域と大学が一緒に関わる場合も信頼関係がないと難しいと思う。頻繁にイベント等で学生と関わりを持ち、理解を深めていくことが必要である」

「学生が地域に興味を持っていない、わからないということであれば、学生や先生に対してのミーティング等があればいいのではないかと思った」

令和3年度事業から 令和4年度事業への発展

令和3年度事業

- ✓ 荒町・連坊地域では、五橋キャンパス開学に対する期待と不安の両方を抱えている
- ✓ 地域と大学の連携・協働の希望が出されており、そのためのコミュニケーションや交流を図る場の創出が求められている。
- ✓ 地域と大学の連携・協働の希望が出されているものの、その具体的な取組内容やそれによる効果までは明らかになっていない

地域全体で当該地域の課題解決を目指す形で、
連携・協働の経験を積んでいく（経験不足を補っていく）ことが必要となる



令和4年度事業

- ✓ 地域づくりに関わる諸団体の機能的な連携に向けた「場」づくり
- ✓ 恒常的に様々な課題解決に向けたサイクルを動かすための“PDCAサイクル”を当該地域全体で理解・確立し、このサイクルに基づいた経験値の蓄積を図る

「地学連携」
の
推進

令和4年度事業 実施状況（中間報告）

実施団体名：東北学院大学地域連携センター

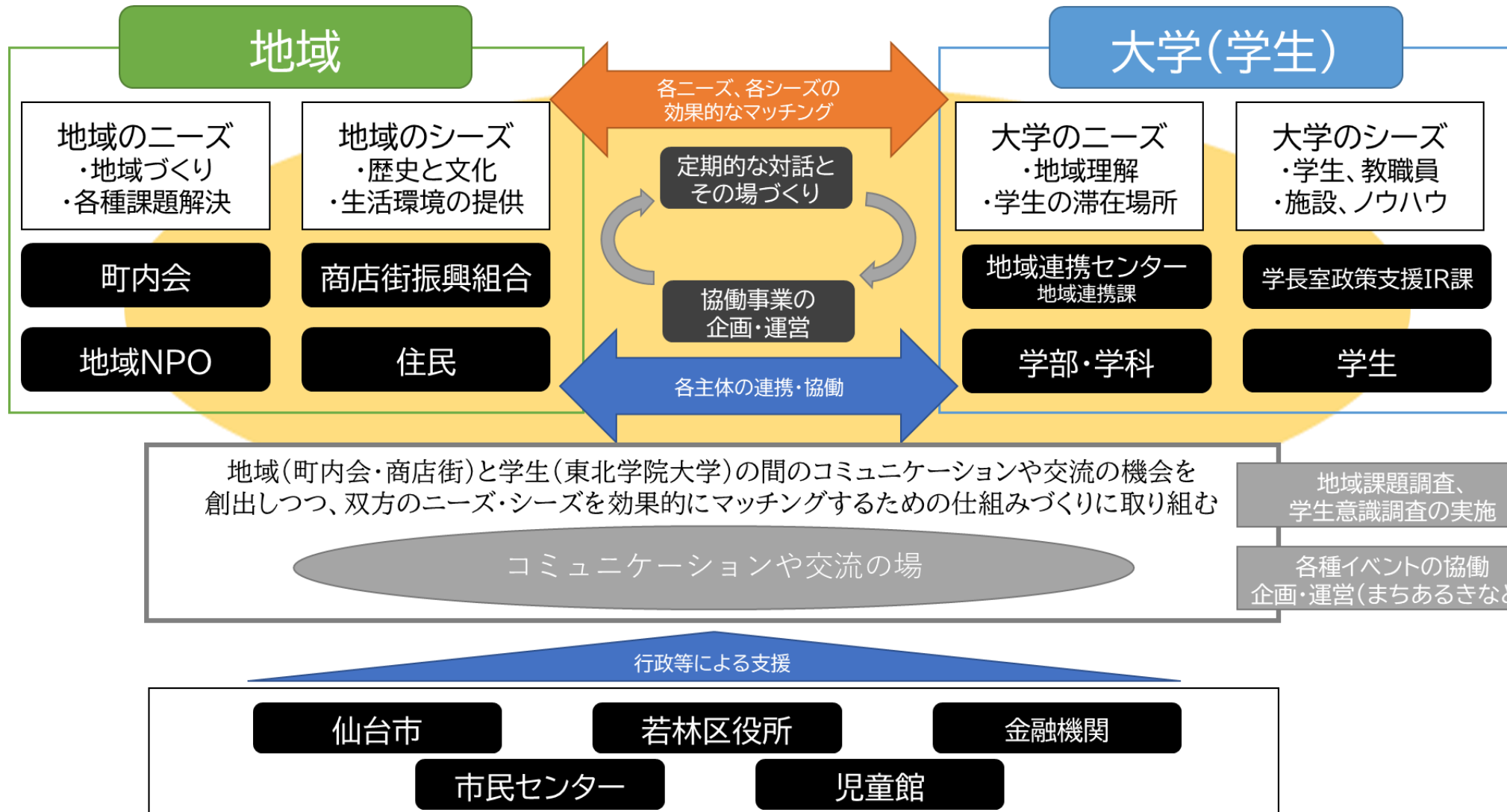
荒町地区連合町内会、連坊地区町内会連合会

荒町商店街振興組合、連坊商興会、むにやむにや通り商店街商興会

荒町市民センター

令和4年度事業には、荒町・連坊の各地域の団体にご参画いただいております。

令和4年度事業の概念図



令和4年度事業の概要

地域の各主体が解決すべき課題認識と、その解決に向けての協働（課題解決のプロセスの形成）

地域と大学の連携・協働に向けた 基盤（連携・協働のための場）づくり

定期的な意見交換会の実施

- ✓ 地域に関わる各種諸団体と大学関係者(学生含む)が定期的に顔を合わせ意見交換が行えるような場を構築する。
- ✓ またその場を活用した協働の地域づくりに向けての連携や各種の協働イベント等、連携の可能性を検討する

地域と大学による課題解決を図るための 協働イベントの試行

地域を対象とした協働型イベントの試行

- ✓ 意見交換会を介して出された各種の意見をもとに、荒町・連坊地域と東北学院大学のそれぞれを開催場所として、地域の課題解決の試行に向けて、PDCAサイクルを意識した形での協働型イベントを試行する
例:まち歩き、地域プロモーション、見守り、環境整備活動

事業実施体制

氏名	団体名	役職	役割
坂本泰伸	東北学院大学	地域連携センター長	事業全体の総括
武川由美子	荒町連合町内会	会長	事業の周知、地域内調整
佐竹伸彦	連坊地区町内会連合会	会長	事業の周知、地域内調整
佐藤隆俊	荒町商店街振興組合	理事長	事業の周知、地域内調整
黒田昌稔	連坊商興会	会長	事業の周知、地域内調整
兒玉光一	むにゃむにゃ通り商店街商興会	会長	事業の周知、地域内調整
笹川圭子	荒町市民センター	館長	事業の周知、地域内調整
相澤孝明	東北学院大学	地域連携課課長補佐	事務局
渡邊圭	東北学院大学	地域連携センター特任准教授	事務局

実施状況（1） 意見交換会の実施

5月17日	荒町商店街振興組合と東北学院大学地域連携センターとの意見交換会の実施
5月20日	連坊商興会、東北学院大学地域連携センターとの意見交換会の実施
5月23日	むにゃむにゃ通り商店街商興会と東北学院大学地域連携センターとの意見交換会の実施
5月24日	連坊地区町内会連合会と東北学院大学地域連携センターとの意見交換会の実施
7月5日	荒町連合町内会、荒町市民センター、東北学院大学地域連携センターとの意見交換
7月28日	事業キックオフミーティングの開催 協働団体より30名の参加
9月7日	荒町連合町内会、荒町市民センター、東北学院大学地域連携センターとの意見交換
9月9日	連坊地区町内会連合会、東北学院大学地域連携センター

* 採択時の付帯条件①「町内会との連携体制をしっかりと構築したうえで、事業を開始してください。」への対応

事業キックオフミーティングの開催

2022年7月28日（木）17：00～18：00（東北学院大学土樋キャンパス本館会議室）

本事業の協働団体の関係者30名が参集し、事業内容の確認や今後の方向性などの確認を行った。



* 採択時の付帯条件②「前年度の成果や地域の課題を、大学と町内会を含めた地域との間で共有し、共有した課題認識のもと事業を進めていただきたい。」への対応

実施状況（2）

地域と学生の意見交換の開催

開催日時：2022年11月3日（木・祝） 10：00 ～ 15：00

開催場所：荒町市民センター

※荒町・連坊の各町内会、各商店街組合と東北学院大学の有志学生との
下記テーマに基づく意見交換会を開催。

テーマ①「地域の皆さんが、大学キャンパスを見学・体験するなら何処？何？」

テーマ②「地域と学生で何ができるのか考えてみよう」

テーマ③「地下鉄沿線のまちづくりを考えてみましょう」

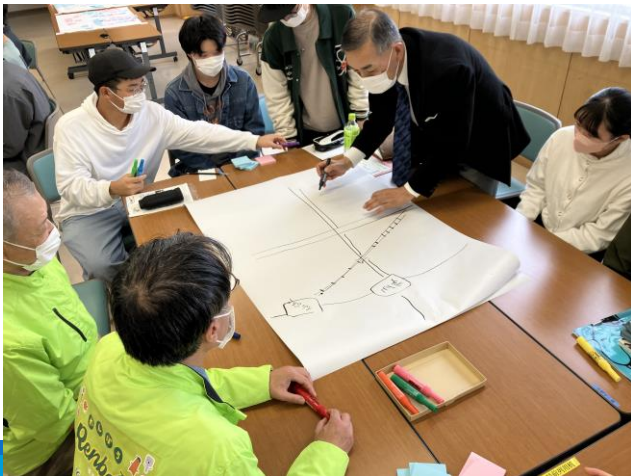
*採択時の付帯条件③「学生の関わりを明確にするとともに、地域と大学による協働イベントを早く進めるなど、学生が参加しやすい場づくりと地域と学生が話し合える機会を創出していただきたい」への対応

意見交換会の様子①



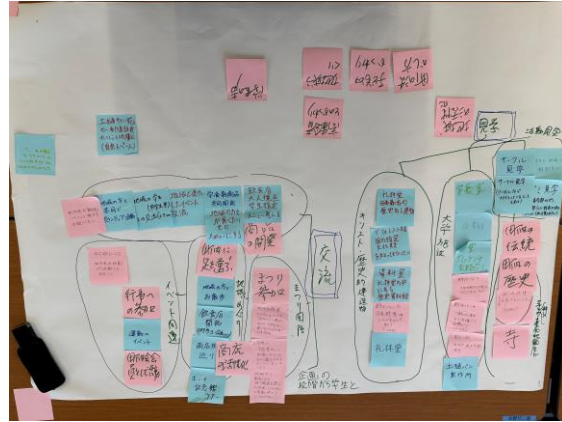
午前中には、荒町・連坊の
各町内会との意見交換を実施

意見交換会の様子②



午後には、荒町・連坊地区にある
3つの商店街（荒町、連坊、むにゃむ
にゃ通り）との意見交換を実施

様々な意見が出されました。



出された意見（一部、抜粋）

地域の声

- 学生の皆さんとまち歩き
- 桜の頃、お花見なんてどうでしょう
- 商店街を学祭会場に！
- 卒論の題材提供
- アルバイトして欲しい。人手不足。
- 学院横町をつくる

....etc...

- 大学キャンパスの一部を地域住民の憩いの場に（自由スペース）
- 地域と連携したイベント・交流
- 地域のお散歩
- 学食を一緒に食べてもらう
- 土樋、五橋エリアのお祭り、職業、特産を紹介

....etc...

学生の声

今後の展開

(1) 定期的な意見交換会の実施

：地域と大学/学生の間での対話の場の継続

(2) 意見交換ワークショップで出されたアイデアの具現化

：地域と学生の対話を基にした企画の実施

(3) 東北学院大学の地域教育科目にて近隣地域との連携

：荒町・連坊の各地域でのフィールドワークの実施

(4) 新たな協働事業の企画

：地域と大学間でのコミュニケーションの活性化を図るための体制整備

「地学連携」
の
推進

今後とも
“荒町・連坊地域” × “東北学院” の
連携を推進していきます!!

本事業への問い合わせ

東北学院大学地域連携センター（担当：渡邊）

k-watanabe * mail.tohoku-gakuin.ac.jp

* を@に変えてお送りください。